

道場で協会のルブニュー講習会開催



川名監督とルブニュー氏

日本フエンスン協会が主催する技術講習会が三月、本場フランスから講師を招いて東京、大阪で行われ、三月十六日(十八日)は母校体育館道場を会場に「四十周年記念行事」の一環として行ったのでご報告します。講師はフランス・フエンスン協会強化委員長グニエル・ルブニュー氏。東京オリンピックのフランス代表選手として来日したことがある日本びいきの人です。参加者は北海道から東海地区までの高校、大学の指導者約五十人。当会から川名監督と現役、それに群馬県の指導者代表として森会員が出席しました。講習会が講義、実技、ビデオ観賞等で充実した三日となりました。ルブニュー氏は母校道場を「実にすばらしい」と次のように絶賛してくれました。「フエンスン協会の専用練習場としてワセダは理想的な環境だ。スペースの

にも適切だし、照明もトレビアン。大学のクラブの専有ということだが、それだけでももったいないほどだ」。川名監督の話。三日間の講習会でどれほどのものを得られるか半信半疑でした。ところがいざ受講してみるとなるほどと感心させられること。連続。例えばフアイティング・レススでは、リードされていて時間は一分を切り、しかも一筋の警告を受けた」という条件つきでいかに戦うか、あるいは「相手の意図を早く見抜いて適切に対応せよ」など、きわめて具体的かつ実践的な指示を出す。かと思うと

金子誠会長の話。昨年は当会の四十周年という記念事業を行いました。全国会員の皆様のご協力と幹事諸氏の努力で記念式典も無事済ませることが出来ました。心から御礼を申し上げます。当会も次の大きな節目である五十周年に向けて新たなステップを踏み出すわけですが、これからもどうぞよろしくお願ひ致します。当会の恒例行事「十月十日」稲光会の日、今年も大学道場で例年通り行われます。OB戦の滝口杯争奪戦、親バレー、オークション等、いつもながらの多彩な催しで楽しい一日を送りたいと思っております。ご家族連れでぜひご参加ください。



講習会風景

新学部がスタート

母校の創立百周年を記念する行事の一環として埼玉所沢市に新設された「人間科学部」が四月、新学期と共にスタート。一期生にあたる一年生五百人が所沢キャンパスで「新早大生」としての学生生活を始めています。新学部は「人間基礎科学学科」「人間健康科学学科」「人間スポーツ科学学科」の三学科から成っており、従来の教育学部の体育学専修(教育学科)が行っていた「特別選抜入学」制度は今年度からスポーツ科学学科に移行。男子三十六人、女子四人の計四十人が入学しています。わが部には、残念ながら該当者がなく、二年連続特選なし、ということになってしまいました。新学部はまた、運動部員の一大供給源ともなりそうです。新一年生五百人のうち運動部員が百五十八人(うち女子二十四人)と、特別選抜の他にも大量の運動部員が入学しているのです。受験は他学部同様、運動選手に対し何らかの特典はありませんが、スポーツを看板にする新学部というイメージがあったようで、相当数の高校運動選手が受験したた

めです。これが新学部の特徴となれば、わが部も特選受験双方に高校選手を獲得すべくスカウト活動を行うことになりましょう。今後にご期待下さい。

合宿のお知らせ

今年度の現役合宿は九月五日(土)から十四日(月)予定の十日間、左記要領で行います。ふるってご参加ください。

▽場所 長野県飯山市「ロッジ本屋敷」

▽交通 上野―長野(特急で三時間)―戸狩野沢温泉(一時間)―ロッジ本屋敷(車で五分)。交通費は片道約六千円

▽宿泊費 一泊三食付き三千八百円から四千五百円まで。

なお、期日が近づいたら、現役の方から改めて連絡があります。

明大創立50周年

明大フエンスン協会が創立五十周年を迎え、六月十三日、東京・神田の「明大百周年記念大学会館」八階ホールで記念パーティーが開かれました。フエンスン協会関係諸団体から広く参加者があり、当会からも金子会長、中村副会長をはじめ多数が出席しました。

10月10日に参加!

金子誠会長の話。昨年は当会の四十周年という記念事業を行いました。全国会員の皆様のご協力と幹事諸氏の努力で記念式典も無事済ませることが出来ました。心から御礼を申し上げます。当会も次の大きな節目である五十周年に向けて新たなステップを踏み出すわけですが、これからもどうぞよろしくお願ひ致します。当会の恒例行事「十月十日」稲光会の日、今年も大学道場で例年通り行われます。OB戦の滝口杯争奪戦、親バレー、オークション等、いつもながらの多彩な催しで楽しい一日を送りたいと思っております。ご家族連れでぜひご参加ください。

稲光会総会 全幹事留任

稲光会総会は四月十四日、大隈会館内の完之荘(かんしそ)で行われました。金子会長、中村副会長以下約三十人の会員、現役が出席。昨年一年間の活動状況、収支決算の報告が行われ、また会長以下全役員、幹事の留任が満場一致で承認されました。

稲光会報

昭和62年7月1日発行
編集 早稲田大学稲光会
編集者 北原輝久
発行 浅野印刷(有)
印刷 浅野印刷(有)
第12巻第16号

1ページ... 特選コンビ世界へ躍進ノ
2・3ページ... リーグ戦詳報 エベ3位、総合5位
4ページ... 稲光会特集

特選コンビ世界へ躍進!

佐々木ジュニア世界選手権準決勝、鈴村は世界選手権代表



大活躍の鈴村(左)と佐々木

特選コンビ世界に羽ばたく―わが部の特別選抜入学第一号鈴村元宏(教4)が世界選手権代表の座を獲得しました。これは当会では初の栄誉。また第二号佐々木剛(教3)は世界ジュニア選手権(サンパウロ)で準決勝まで駒を進め、世界十六人の中に残るといふ快挙を達成しました。日本のジュニア史上最高の成績です。

鈴村 オリンピックの期待も

五月の連休。リーグ戦の合間をぬって世界選手権の代表を決める国内予選会が開かれました。エベを得意種目とする鈴村は、全国から集まった強豪に混じって予選スタート。何度もピンチに立たされたながらも強じんな精神力で立ち直り、決勝プールに残りました。

別掲の成績を見ても分かるように、決勝に駒を進めた選手たちは全日本級の顔ぶれ。さすがに本人も「自分でよく勝てたと思います」と述懐していましたが、悪戦苦闘の連続。「最後は開き直るしかないと考えた」と、無心になれたのがよく、終盤三連勝して見事代表の

佐々木 日本選手中最高の成績

ジュニア世界選手権は四月、ブラジルのサンパウロ市で行われました。佐々木は昨年に続き二年連続の出場。今回は本大会に先がけて、三月に香港で第一回アジア・ジュニア選手権が開催され、佐々木はフルレ個人三位に入賞しました。本大会フルレに出場した佐々木は「二年目だし、香港でのこともあるので、前回とは比べものにならないほど落ち着いて戦えました」と語っていますが、その言葉通り予選プールは難なく

- 鈴村 5-1-2 村上 (日大)
 - 鈴村 5-1-4 佐藤 (新潟)
 - 鈴村 3-1-5 高野 (慶大)
 - 鈴村 5-1-4 坂口 (大阪)
 - 鈴村 3-1-5 永井 (島根)
 - 鈴村 5-1-4 合沢 (中大)
 - 鈴村 5-1-4 真田 (日吉)
 - 鈴村 5-1-2 三野 (中大)
- ▽順位 ①菅原8勝1敗
②永井7勝2敗③鈴村6勝3敗④坂口5勝4敗(以上四人がエベ代表に決定)

エペでも位一戦 関東学生リーグ戦

サーブルで頑張った山崎(右)



富田淳(左)もサーブルで健闘



女子も健闘しました。石川(右)

藤野(右)は7勝をあげた



10年ぶり1部リーグ で入替戦なし エペは来年も期待!

| | | |
|---|---------------|--------------|
| 中大 | 8-1-7 | 早大 |
| ▽最終日(5月24日) | | |
| 早大 | 8-1-6 | 日大 |
| 中大 | 8-1-6 | 専大 |
| 法大 | 12-1-4 | 拓大 |
| (順位) ①中大(5勝) | | |
| ②法大(4勝1敗) | ③早大(3勝2敗) | ④日大(2勝3敗) |
| ⑤専大(1勝4敗) | ⑥拓大(5敗) | |
| 〈早大選手成績〉鈴村13勝7敗 落合12勝8敗(両負け) | 佐々木9勝11敗(両負け) | 富田5勝15敗(両負け) |
| (総合順位) ①中大 ②法大 ③専大 ④日大 ⑤早大 ⑥拓大 | | |
| (二部総合順位) ①日体大 ②立大 ③東農大 ④慶大 ⑤国士大 ⑥明大 | | |
| (女子)(三部) | | |
| 青学大 | 6-1-3 | 早大 |
| 早大 | 5-1-4 | 大妻大 |
| 明大 | 9-1-0 | 早大 |
| 上智大 | 6-1-3 | 早大 |
| 成城大 | 5-1-4 | 早大 |
| 東海大 | 9-1-0 | 早大 |
| (順位) ①明大 ②東海大 ③青学大 ④上智大 ⑤大妻大 ⑥早大 ⑦大妻大 ⑧大妻大 ⑨大妻大 | | |
| 〈早大選手成績〉藤野7勝11敗 石川6勝12敗 坂本2勝10敗 | | |

賞したのは四十七年、佐藤勲(故人)主将時代にサーブルで三位入賞を果たして以来、実に十五年ぶりのこと。快挙といえるでしょう。戦前の予想では「中、法の優勝争い。わが部は二強にどこまで割って入れるか」というものでした。結局、日専、拓を連破し、中、法に次いで三位だから予想通りの結果といえます。ただし対中・法戦も、共に最終戦まで勝利がもつれ込むという健闘ぶりだったことをお伝えしておきます。

法大戦では先に8勝の王手をかけての惜敗。中大戦も7-1-7のタイスコアから最終試合も3-1-2とワンポイント・リード。時間はあと32秒というきわどいところまで中大を追いつめたものです。なぜ勝てなかったのか? やはりそこまでいくと常勝チームと弱少チームの差が出たとしか言いようがありません。優勝チームをそこまで苦しめたという点を評価してあげたいと思います。

エペ善戦の原動力は、やはり鈴村、佐々木という特別選抜組の二枚駒の存在。そして富田(暁)、落合の学院出身コンビの成長でエペのスペシャリストが四人そろったことにあります。特に落合の成長は目覚ましい

ものがあり、本来のセンスを生かした積極戦法で、こころ一番という大事な局面で確実に勝ち星を挙げ自軍をふるい立たせたものです。佐々木、富田、落合の三人は共に三年生。来年もそろって出場するので、四番手の補充いかなんでは「夢よ、もう一度」ということになりそうです。

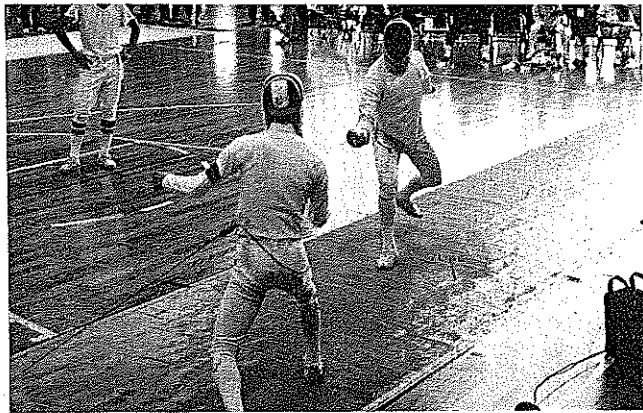
フルール、サーブルは明らかに他校との戦力格差がありすぎました。三種目をろって今年のエペなみの陣容でリーグ戦に臨む、というのは、現状ではまだまだ先のこと。総合力での苦戦は当分の間続きそうです。

(監督・川名宏美)

〈入替戦〉
一部拓大が残留
二部明大が残留

拓大 2-1-1 日体大
(二部六位) (一部一位)
フルール 4-1-12
サーブル 9-1-7
エペ 7-1-6

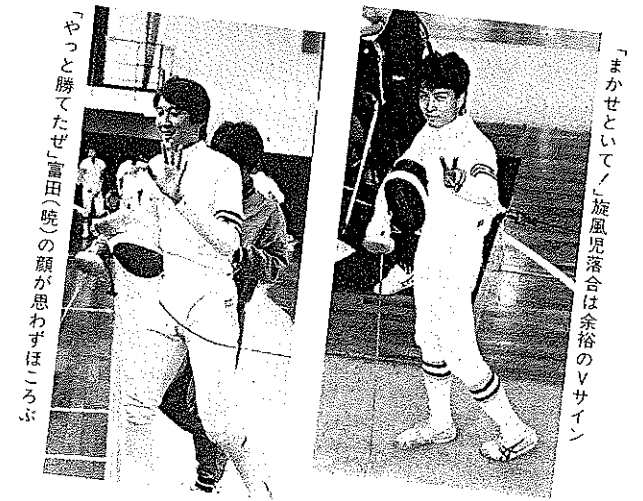
〈拓大は一部残留〉
明大 2-1-0 国学大
(二部六位) (一部一位)
フルール 10-1-6
サーブル 9-1-3
(明大は二部残留)



牽引車鈴村(右)の戦いぶり

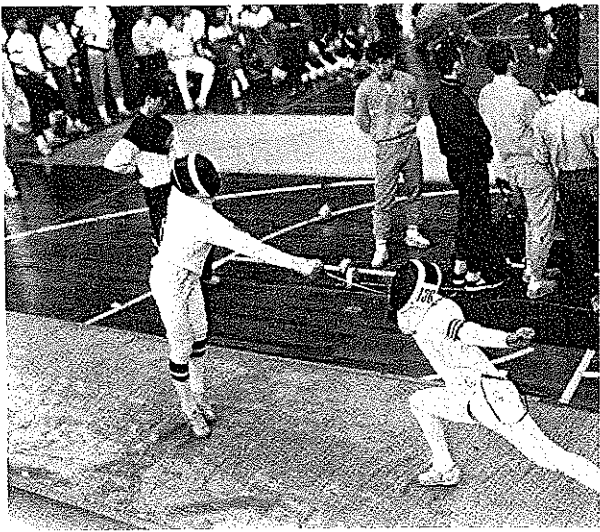


開会式。新しい戦いの始まり



「やっと勝てた」富田(暁)の顔が思わずほころぶ

「まかせといて」旋風児落合は余裕のVサイン



やや調子を出し切れなかったが頑張った佐々木(右)

エペで健闘三位! 十年ぶり一部リーグで入替戦なし。62年度関東学生リーグ戦は四月十九日から五月二十四日まで行われた。エペ陣にメソンのそろった母校は専、日、拓を連破し、中、法に次ぐ三位入賞。フルール六位、サーブル五位で総合は拓大を抜く五位となった。

| | | |
|-------------|--------|----|
| (フルール) | | |
| ▽第一日(4月19日) | | |
| 中大 | 11-1-5 | 専大 |
| 法大 | 10-1-6 | 早大 |
| 拓大 | 11-1-5 | 日大 |
| ▽第二日(4月21日) | | |
| 法大 | 11-1-5 | 日大 |
| 中大 | 12-1-4 | 早大 |
| 専大 | 9-1-7 | 拓大 |
| ▽第三日(4月22日) | | |
| 専大 | 11-1-5 | 法大 |
| 中大 | 9-1-7 | 拓大 |
| 日大 | 13-1-3 | 早大 |
| ▽第四日(4月27日) | | |
| 中大 | 12-1-4 | 日大 |
| 法大 | 13-1-3 | 拓大 |
| 専大 | 9-1-7 | 早大 |
| ▽第五日(4月28日) | | |
| 拓大 | 11-1-5 | 早大 |
| 専大 | 12-1-4 | 日大 |
| 中大 | 8-1-8 | 法大 |
| (被突破数の差) | | |
| ▽第一日(5月1日) | | |
| 法大 | 12-1-4 | 専大 |
| 中大 | 13-1-3 | 拓大 |
| 日大 | 10-1-6 | 早大 |
| ▽第二日(5月10日) | | |
| 日大 | 8-1-8 | 中大 |
| 法大 | 12-1-4 | 拓大 |
| 専大 | 11-1-5 | 早大 |
| ▽第三日(5月11日) | | |

②専大(4勝1敗) ③法大(3勝2敗) ④拓大(2勝4敗) ⑤日大(1勝4敗) ⑥早大(5敗)

〈早大選手成績〉鈴村13勝7敗 佐々木4勝4敗 山崎4勝16敗 津川4勝16敗 富田(淳)8敗 落合4敗 (佐々木はジュニア世界選手権遠征のため、後半二試合のみ出場)

(サーブル)

▽第一日(5月1日)

法大 12-1-4 専大

中大 13-1-3 拓大

日大 10-1-6 早大

▽第二日(5月10日)

日大 8-1-8 中大

法大 12-1-4 拓大

専大 11-1-5 早大

▽第三日(5月11日)

| | | |
|--|--------|----|
| (エペ) | | |
| ▽第一日(5月15日) | | |
| 中大 | 13-1-2 | 拓大 |
| 法大 | 8-1-8 | 早大 |
| 日大 | 8-1-7 | 専大 |
| ▽第二日(5月16日) | | |
| 法大 | 8-1-8 | 専大 |
| 早大 | 7-1-6 | 拓大 |
| 中大 | 9-1-6 | 日大 |
| ▽第三日(5月17日) | | |
| 中大 | 12-1-4 | 法大 |
| 日大 | 15-1-1 | 拓大 |
| 早大 | 9-1-6 | 専大 |
| ▽第四日(5月22日) | | |
| 専大 | 9-1-6 | 拓大 |
| 法大 | 9-1-6 | 日大 |
| (被突破数の差) | | |
| ▽第一日(5月12日) | | |
| 法大 | 10-1-6 | 日大 |
| 中大 | 12-1-4 | 早大 |
| 専大 | 13-1-3 | 拓大 |
| ▽第五日(5月13日) | | |
| 早大 | 11-1-5 | 拓大 |
| 日大 | 11-1-5 | 専大 |
| 法大 | 9-1-7 | 中大 |
| (順位) ①法大(5勝) | | |
| ②日大(4勝1敗) ③中大(3勝2敗) ④専大(2勝3敗) ⑤早大(1勝4敗) ⑥拓大(5敗) | | |
| 〈早大選手成績〉鈴村14勝6敗 佐々木5勝13敗 山崎5勝11敗 富田(淳)5勝15敗 木村6敗 | | |